

NEWSLETTER

比較経済体制学会

NO.32 APRIL 2009

Contents

- 2009年度比較経済体制学会第49回全国大会のご案内
- 編集委員会からのお知らせ
- 学会ニュース
- 代表幹事雑感
- 事務局だより

2009年度比較経済体制学会第49回全国大会のご案内

来る6月6日（土曜日）・7日（日曜日）の2日間、國學院大学において比較経済体制学会第49回全国大会が開催されます。第49回全国大会の特設Webサイトは以下の通りです。報告要旨・報告論文も順次掲載されますので、どうぞご覧ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaces/JACES2009atKokugakuin.html>

なお、報告要旨・報告論文の閲覧にはパスワードが必要です。パスワードは次の通りです。

(パスワード削除)

大会組織委員会・大会事務局スタッフの負担軽減のため、報告論文の印刷は参加者各自でお願いいたします。

ニューズレターとともに、大会出欠確認のための返信用葉書が届きます。プログラムをご確認のうえ、5月15日（金曜日）までにご投函いただきますようお願いいたします。大会準備、弁当・懇親会の手配などのため、期日までの投函にご協力ください。

2つの「共通論題」に加え、世界的な金融危機に関する「緊急パネル」を設けました。みなさま多数のご参加を心待ちにしております。

2009年度比較経済体制学会 第49回全国大会プログラム

The 49th Annual Conference

The Japan Association for Comparative Economic Studies (JACES)

共通論題1「独裁体制の経済分析：過去と現在」
共通論題2「移行経済体制における政府－企業間関係」
準共通論題「（緊急パネル）世界金融危機と移行諸国」

2009年6月6日（土）・7日（日）

会場：國學院大學渋谷キャンパス

大会プログラム委員会 委員長：酒井正三郎（中央大学）

委員：大津定美（大阪産業大学）・田畑理一（大阪市立大学）

上垣彰（西南学院大学）・加藤志津子（明治大学）

大会組織委員会 委員長：尾近裕幸（國學院大學）

委員：田畑理一（大阪市立大学）・岩崎一郎（一橋大学）・杉浦史和（帝京大学）

大会事務局：〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 國學院大學経済学部 尾近裕幸

（研究室） Tel: 03-5466-0339 / Fax: 03-5446-2340 / e-mail: okon(at mark)kokugakuin.ac.jp

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ プログラム ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

〔6月5日（金）15：00－17：00 幹事会（会場：若木タワー9階経済学部共同研究室（予定））〕

【大会第1日目】

6月6日（土）

9：30～ 会場受付（学術メディアセンター1階 多目的ホール）

9：30－10：00 学会誌編集委員会（会場：若木タワー9階 経済学部共同研究室）

10：00－10：15 開会式（会場：学術メディアセンター1階 常盤松ホール）

司 会：酒井正三郎大会プログラム委員長（中央大学）

開会の辞：大津定美代表幹事（大阪産業大学）

開催校挨拶：尾近裕幸大会組織委員長（國學院大学）

共通論題説明：酒井正三郎大会プログラム委員長（中央大学）

10：15－12：30 共通論題1 「独裁体制の経済分析：過去と現在」

（会場：学術メディアセンター1階 常盤松ホール）

司 会：上垣彰（西南学院大学）

第1報告：木村雅則（松本歯科大学）「スターリン経済体制の制度的配置と再生産メカニズム—1930年代国営工業を中心に—（仮）」

第2報告：山本恒人（大阪経済大学）「毛沢東体制—その存立基盤と内包する社会衝突的リスク（仮）」

第3報告：工藤年博（アジア経済研究所）「ミャンマー軍政の経済基盤（仮）」

第4報告：木村光彦（青山学院大学）「北朝鮮経済の実態」

コメンテータ：黒坂真（大阪経済大学）

12：30－13：30 昼 食 （幹事会：若木タワー9階 経済学部共同研究室（予定））

13：30－14：45 共通論題1 「独裁体制の経済分析：過去と現在」（つづき）

15：00－16：30 会員総会（会場：学術メディアセンター1階 常盤松ホール）

16：45－18：15 自由論題報告A パネル「ロシアの国家と企業」（会場未定）

〈自由論題報告Bと同時進行〉

司 会：加藤志津子（明治大学）

第1報告：安達祐子（上智大学）「プーチン政権下におけるロシア地下資源をめぐる国家・企業関係の検討」

第2報告：杉浦史和（帝京大学）「金融危機後のロシアにおける政府・ビジネス関係の検討」

第3報告：岩崎一郎（一橋大学）「政府代表取締役と企業行動—ロシア企業の実証分析—」

コメンテータ：栖原学（日本大学）

16：45－18：15 自由論題報告B（会場未定）

〈自由論題報告Aと同時進行〉

司 会：白石麻保（北九州市立大学）

第1報告：張 涛（尚絅学院大学）「中国の金融システム・アーキテクチャーにおける政府の役割—制度・情報からのアプローチ—」

第2報告：三田昌史（中央大学・非）「中国の景気変動—経済の構造的不均衡とスタグフレーション体質—」

コメンテータ：座間紘一（桜美林大学）

18:30～ 懇親会（会場：若木タワー18階 有栖川宮記念ホール）

【大会第2日目】

6月7日（日）

9:30-12:30 共通論題2「移行経済における政府-企業間関係」（会場：120周年記念2号館 2203教室）

司 会：酒井正三郎（中央大学）

第1報告：音羽周（ロシアNIS経済研究所）「ロシアにおける国家・ビジネス関係の変容—国家主導経営モデルは持続可能か？」

第2報告：吉井昌彦（神戸大学）「中・東欧諸国における政府-企業間関係—EU競争政策との関連で—」

第3報告：任雲（桜美林大学）「中国における政府・企業間関係の変化—国有大企業の改革を中心として—」

コメンテータ：堀江典生（富山大学）

12:30-13:30 昼 食 （幹事会：若木タワー9階 経済学部共同研究室（予定））

13:30-15:00 自由論題報告C（会場：120周年記念2号館 2202教室）

〈自由論題報告Dと同時進行〉

司 会：大津定美（大阪産業大学）

第1報告：瀬戸岡紘（駒沢大学）「現下の金融危機の歴史的的位置」

第2報告：望月喜市（北海道大学・名）「新タイプの世界的恐慌とロシア経済」

コメンテータ：岡田裕之（法政大学・名）

13:30-15:00 自由論題報告D（会場：120周年記念2号館 2301教室）

〈自由論題報告Cと同時進行〉

司 会：尾近裕幸（國學院大學）

第1報告：土田陽介（浜銀総合研究所）「旧ユーゴ諸国における為替・金融政策の比較分析—ボスニア、コソヴォ、モンテネグロ」

第2報告：菅沼桂子（一橋大学経済研究所研究支援推進員）「ロシアにおける外国資本の導入と地域経済への波及効果—サハリン州の事例研究」

コメンテータ：阿部 望（明治学院大学）（対土田報告）

小西 豊（岐阜大学）（対菅沼報告）

15:15-17:30 緊急パネル「世界金融危機と移行諸国」

（会場：120周年記念2号館 2203教室）

〈各報告20分〉

司 会：田畑理一（大阪市大）

第1報告：金野雄五（みずほ総合研究所）「ロシアの経済危機と政策対応（仮）」

第2報告：松澤祐介（西武文理大学）「中東欧金融危機の発生と対応（仮）」

第3報告：渡邊真理子（アジア経済研究所）「金融危機を機に台頭する中国」

第4報告：大田英明（愛媛大学）「欧州移行諸国における金融危機の影響—IMF支援と資本自由化—」

コメンテータ：田畑伸一郎（北海道大学）

柯 隆（富士通総研）

大会当日の昼食について

國學院大学渋谷キャンパスでは、土曜日に生協食堂（百周年記念館地下1階）と学術メディアセンター1階のカフェラウンジが営業します。また近隣にもいくつか食事をする場所があります。ただし國學院大学生も多数利用しますので、お弁当のご予約をおすすめします。また日曜日はこれらの昼食処は営業をしませんの

で、同じくお弁当のご予約をおすすめします。ご予約は、出欠確認はがきにてお願いいたします。お弁当の代金は大会当日、受付にてお支払いください。当日のお申し込みはできません。また、申し込み分のキャンセルはできません。必ず受付にて代金をお支払いください。

國學院大学渋谷キャンパスへのアクセス

渋谷駅から

- ・渋谷駅（JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線）から徒歩約13分
- ・渋谷駅（JR埼京線）新南口から徒歩約10分
- ・都営バス（渋谷駅東口バスターミナル54番のりば 学03日赤医療センター行）「国学院大学前」下車（運賃170円）

表参道駅から

- ・表参道駅（地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線）B1出口から徒歩約15分

恵比寿駅から

- ・恵比寿駅（JR山手線・地下鉄日比谷線）から徒歩15分
 - ・都営バス（恵比寿駅西口ロータリー1番のりば 学06日赤医療センター行）「東四丁目」下車
- アクセスにつきましては、以下のURLでご確認ください。

<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/access.html>

國學院大学

渋谷キャンパス校舎配置図

國學院大学渋谷キャンパスは、正門及び神殿前庭改修工事のため、平成21年2月16日～9月中旬迄正門を封鎖しております。若木タワー、120周年記念2号館、百周年記念館への入構は西側入口をご利用下さい。【地図参照】



宿泊について

ご宿泊については、各自で手配していただきますようお願いいたします。

(尾近裕幸大会組織委員長)

編集委員会からのお知らせ

(1) 原稿募集

現在、6月刊行を目指して『比較経済研究』第46巻第2号の出版準備をおこなっています。その次の第47巻第1号の投稿締切は8月31日です(2010年1月刊行予定)。第47巻第1号の編集担当は小西会員 (ykonishi@gifu-u.ac.jp) です。

第46巻第1号には4本の投稿(論文、研究ノート)があり、3本が掲載されました。第46巻第2号には1本の投稿がありましたが、残念ながら掲載されない予定です。投稿数にやや減少傾向がみられます。本学会機関誌を質的にも量的にも発展させていくためには、まずは投稿論文の数を増やすことが必須です。会員皆様のご協力をお願いする次第です。

論文、研究ノートに加えて、書評の投稿あるいは書評で取り上げるべき本の編集委員会への

提案もお待ちしています。

(2) 著作権行使の委託にかかわる調査

学会ホームページで掲示のとおり、独立行政法人科学技術振興機構の支援により、学会機関誌既発行分についての電子アーカイブ化プロジェクトが進行中です。電子アーカイブ化に関連して、学会機関誌掲載物の著作権について適切に処理することが必要となります。著作権処理については本年6月の学会総会で審議されます。この審議に先立ち、著作権処理についての意向調査を現在おこなっています(http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaces/JACES_copyright.pdf)。ご一読いただきますようお願いいたします。

(学会機関誌編集委員会)

学会ニュース

* 第三回比較経済体制学会研究奨励賞の募集が締め切られました。

第三回比較経済体制学会研究奨励賞の応募は、3月末日をもって締め切りました。2名の会員からの応募がありました。すでに審査委員も選出され、9月末日までが審査期間となっています。審査結果は、秋期大会で発表する予定です。

す。次年度におきましても、2010年2月初めより3月末日まで第四回比較経済体制学会研究奨励賞の募集を行う予定です。来年度も、自薦・他薦を問わず、積極的なご応募をお待ちしています。

* 弔報：今井健一会員

当学会会員で、アジア経済研究所東アジア研究グループ長(主任研究員)でおられた今井健一氏が2009年1月20日にご逝去されました。享年42歳。今井氏は1989年にアジア経済研究所入所以来、中国経済を専門として、中国の国有企業改革やIT産業を研究され、『企業の成長と金

融制度』(渡邊真理子会員と共著、名古屋大学出版会、2006年)、『中国 高度化の潮流—産業と企業の変革』(丁可氏と共編、アジア経済研究所、2007年)など、数多くの業績を残してこられました。早すぎるご逝去が誠に惜しまれます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

* 2009年秋期大会開催校について

2009年秋期大会は、立命館大学(びわこ・くさつキャンパス)において10月24日(土曜)に開催する予定です。大会組織委員長は、田中宏会員(立命館大学)、プログラム委員長は、溝端佐登史会員(京都大学)です。秋期大会にお

ける自由論題募集などは、追ってお知らせすることになりますが、みなさまご準備のうえ積極的にご応募、ご参加いただきますようお願いいたします。

* 2010年全国大会開催校について

2010年全国大会は、大阪市立大学で開催することになりました。大会組織委員長は、田畑理

一会員(大阪市立大学)です。詳細については、追ってお知らせすることになります。

*欧州比較経済学会 (EACES)との協力に関する覚書締結

欧州比較経済学会アジアワークショップが2009年2月26 - 27日、比較経済体制学会の後援のもと、京都大学にて開催されました。大津

定美代表幹事は、EACESのJENS HOLSCHER代表と今後の両学会の親密で友好的な関係を構築することを唱った覚書を締結いたしました。

**MEMORANDUM OF COOPERATION
BETWEEN THE EUROPEAN ASSOCIATION FOR COMPARATIVE ECONOMIC STUDIES
AND THE JAPAN ASSOCIATION FOR COMPARATIVE ECONOMIC STUDIES**

DESIRING to further promote the close and friendly relations existing between the European Association for Comparative Economic Studies (hereinafter referred to as "EACES") and the Japan Association for Comparative Economic Studies (hereinafter "JACES"), the presidents of the two associations intend to undertake cooperative activities under this Memorandum based on the following principals:



- to encourage JACES members and other Japanese scholars specialized in comparative economics and other related research areas to participate in EACES activities including bi-annual congresses and workshops;
- to promote EACES members and other European scholars in comparative economics and other related research areas to participate in conferences and workshops organized by JACES as guest speakers and panelists;
- to hold EACES workshop in Japan on a regular basis in cooperation with JACES;
- to exchange information regarding activities of the two associations;
- to consult closely on the implementation of other programs beneficial for mutual cooperation between the two associations.

Signed in Kyoto City, Japan, the 27th day of February 2009.

代表幹事雑感

東アジアのロシア・東欧研究



この2月と3月、中国や韓国のロシア研究者とご一緒させていただく機会が重なった。まず、2月に2つの国際シンポがあった。一つは北海道大学で開催されたFirst East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies (2月5-6日)で、もう一つは京都大学で開催されたEACES Asian Workshop "Sustainability and Future Perspectives of Emerging Markets - Through the Lens of Asian Dynamics" (2月26-27日)である。これらについては広報もされ、わが学会からの参加者も多いので詳しく述べる必要はないが、私自身は、前者では、沢山の韓国・中国からの研究者とセッションや懇親会で話すことが出来き、特に普段はチャンスが

少ない歴史や国際関係分野の専門家とお会いできたのは貴重な体験であった。これだけ沢山の韓国・中国からの研究者と一堂に会し、意見を交わすことが出来たのは初めてである。中国からのグループの一部とは、折からの「札幌雪祭り」も「視察」し、親交を深めることができた。後者では、やはり韓国と中国からの若い研究者の報告に接することが出来ただけでなく、シンポ以外の場でもゆっくり交信・懇談できた。さらには、ヨーロッパの比較経済体制学会の責任者の出席・報告もあり、この機会を逃すわけにはいかないというわけで急遽EACESとJACESが東アジアでの連携強化を目指す覚書を調印するというハプニングまでであった。

そして3月末には私が勤める大学主催の「アジア共同体シンポ」が上海であり、その機会を利用して、復旦大学（ロシア・中央アジア研究センター）と上海国際問題研究所を訪問し、専門研究者と懇談できた。

一つの大きな印象は、上海にはロシア語が堪能なロシア研究者が相当数おり、研究・教育の分野で活躍しているということである。中国の研究者とはこれまでも若干のお付き合いの機会があったが、私自身は中国語が出来ないので、ほとんどが通訳のお世話になってきた。今回は通訳なしでダイレクトに研究者とコミュニケーションできた。また、上海国際問題研究所では、20人ほどの院生に英語での講義を聞いてもらい、かなり突っ込んだ質問もあったのは嬉しい経験だった。また、ロシア研究者の多くはロシアの大学に長期間留学の体験をもつ。サンクト・ペテルブルグに7年間滞在し博士論文も完成させてきたという女性。私を招いて下さった上海国際問題研究所・ロシア中央アジア室長のZhao Longさんは、ベロルシアの大学で博士論文をものして帰国した。90年代初めのあの混乱と窮乏のなかのミンスクに4年も滞在し、生き延びたというのである。日本でそんな研究者に会ったことはない。経済の分野以外でも同様の方が少なからずおられるようである。若い研究者育成

においては、特に現地派遣方式で日本は太刀打ちできないのではないかと、時にはこの「厚かましき」も学ぶべきではないか、という印象を強めた。

とりわけ楽しい思いをしたのは、北大や京大でお会いした先生方と再会できたことである。京都で会った華東師範大学・金融統計学院の楊来科（Yang Laike）教授は、上海交通大学でのシンポに一日中付き合っていた。また、復旦大学経済学院の劉軍梅（Liu Junmei）さんには、私の講義や懇談会のプログラムをセットしていただくなど、大変お世話になった。6月にサンクト・ペテルブルグで行われるシンポジウムでまた、お会いできるのが楽しみだ。

東アジアでの研究者との連携が進むのは大変良いことだ。研究者の層の厚さでは、日本がなお一日の長がありそうだが、その日本も、ロシア・東欧研究に関しては、これまで往々にして欧米の研究成果に頼らざるを得ないケースが多かったが、これからはそれは異なる、「東アジアから視るロシア・東欧研究」にもっと意を用いるべきではないだろうか。今一度「円高に振れたら」、韓国にも出かけてみようか、などとも思いはじめています。

（大津定美）

事務局だより

今回みなさまのもとに、このニューズレターとともにお届けしたのは、國學院大学で開催されます第49回全国大会の出欠ハガキです。必ず期限内（5月15日まで）にご返事いただきますようお願いいたします。

ニューズレターに掲載されました第49回全国大会プログラムおよび宿泊・交通機関情報は、尾近裕幸大会組織委員長よりご提供頂きました。酒井正三郎プログラム委員長の多大な労を反映する充実したプログラムができあがりしました。みなさま多数のご参加をお待ちしています。

3月末日で第二回比較経済体制学会研究奨励賞の応募を締め切りました。応募いただいた方々に御礼申し上げます。ただ、第二回研究奨励賞と同様に第三回研究奨励賞の応募者も2名のみのお応募というのは少しさみしいように感じます。広報も含め事務局としても応募数の増加に努めたいと考えていますが、会員のみなさまの積極的なご推薦などによりこの研究奨励賞を盛り上げていただきたいと思っております。

学会の発展には、会員の拡大が不可欠です。事務局といたしましても、会員の拡大のため、みなさまにご協力を呼びかけたいと思っております。2009年度全国大会に向けて、新規入会をご希望される方が周囲にいらっしゃいましたら、

積極的にお声をかけていただきますようお願い申し上げます。入会手続きや入会申込書等は、本学会ホームページに詳しくあります。

また、この時期、異動や転居をされる方々もいらっしゃることでしょう。所属機関の変更や住所変更のお知らせは、変更が生じたときに速やかにお知らせいただきますようお願い申し上げます。とくに、院生会員の方で就職され正会員になられる方々は、次年度会費に関わりませんので、ご連絡いただきますようお願い申し上げます。連絡先は、学協会サポートセンター・比較経済体制学会担当（TEL：045-671-1525 FAX：045-671-1935 e-mail：scs@gakkyokai.jp）またはメンバーシップ管理担当幹事（丸川）までお願いいたします。

2009年全国大会をもって、現役員および事務局も任期を終了します。事務局一同、これまでの皆様のご協力に深く感謝申し上げます。大津定美代表幹事のもとでの最後のニューズレターということで、大津代表幹事にご寄稿いただきました。代表の顔が見えるニューズレターというのもいいと思いませんか。いかがでしょうか。

（事務局）

ニュースレターNO.32 発行

2009年04月16日

比較経済体制学会事務局

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学極東地域研究センター 堀江典生

Tel. 076-445-6436 Fax 076-445-6520

E-mail: [horie \(at mark\) eco.u-toyama.ac.jp](mailto:horie(at)mark.eco.u-toyama.ac.jp)

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaces/index.html>

メンバーシップ管理担当幹事 東京大学 丸川知雄

E-mail : [marukawa \(at mark\) iss.u-tokyo.ac.jp](mailto:marukawa(at)mark.iss.u-tokyo.ac.jp)

会計担当幹事・Web担当幹事 一橋大学 雲和広

E-mail : [kumo \(at mark\) ier.hit-u.ac.jp](mailto:kumo(at)mark.ier.hit-u.ac.jp)